キャンパスシッターによる育成・支援プラン

(実施期間：平成 20～22 年度)

実施機関：新潟大学（総括責任者：下條 文武）

プロジェクトの概要

「女性研究者支援」と「女性研究者育成」を本事業の柱とし、それぞれの事業のコーディネーターや支援者となる「キャンパスシッター」による子育て支援チーム、メンターチーム、キャリア形成チームが連携をとりながらプロジェクトを推進する。①所定の研修を受けた本学在学学生「新大シッター」による大学構内での一時的な保育支援制度の構築。②IT 技術によるユビキタスリサーチ環境の整備による在宅勤務支援。③研究補助員の配置。④地域と連携した「新潟女性研究者人材バンク」の整備。⑤メンター制度の構築と運用。⑥大学院自然科学研究科女子大学院生による小中高校への出前授業。⑦キャリア形成に関わる授業の開設。⑧女子大学院生と女性研究者の情報交換の場としてのキャリア・カフェの開設。

(1) 評価項目

総合評価	目標達成度	システム改革の成果	取組	波及効果	実施体制	実施期間終了後における取組
A	a	a	a	s	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

「新大シッターによる保育支援制度」という特徴的な一時保育支援制度を構築し、女性研究者の両立支援を推進するとともに、新大シッターとなった女子学生の意識改革及びキャリア形成を推進しており評価できる。女性教員の採用、登用にも積極的に取り組み、自然科学系分野において上位職階の女性教員の増加につなげている。今後は理工農学系分野での女性教員の増加を期待する。

目標達成度：新大シッターによる保育支援及び研究補助員の配置は、女性研究者の両立支援において成果を上げており評価できる。子育て支援、メンター支援、キャリア支援の目標をほぼ達成している。今後は自然科学系に新規採用された教員における女性研究者割合 20%、大学院自然科学研究科博士課程の女子学生割合前期 25%、後期 20%という目標を達成することを期待する。

システム改革の成果：全教職員を対象とした男女共同参画意識の醸成に向けたシンポジウムの実施、男女共同参画関連の授業の開講などにより男女共同参画の意識改革を推進し、女性教授が皆無であった自然科学系分野において女性教授 3 名の誕生を、また、自然科学系分野における教員の女性限定公募を実現している点は評価できる。

取組：新大シッターによる保育支援制度の利用者は年々増加しており、女性教員のニーズに応えた取組と評価できる。また、中高生を対象とした女子大学院生によるサイエンス・セミナーの受講者は延べ約 4,500 人に上っており、女性研究者の裾野拡大として効果が期待される。

波及効果：新大シッターによる保育支援制度は複数機関で保育支援に取り入れられており、十分な波及効果が認められ高く評価できる。

実施体制：学長直属の企画戦略本部に女性研究者支援室を設置しており、学長のリーダーシップの下、学内を横断的に組織し、全学体制でプロジェクトを実施していることは評価できる。

実施期間終了後における取組：相当の予算を確保し、事業終了後もほとんど全ての事業を継続して実施し、専任教員2名も継続して雇用しており評価できる。